

1. 職名・氏名 教授・吉村臨兵2. 学位 修士(経済学)、専門分野 経済政策学、授与機関 大阪市立大学、授与年月 1993年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（2単位 毎年開講） 4年生	
② 内容・ねらい おもに労働、就労、または格差の問題に関心のある学生が相互に研究を深めて論文が仕上げられるよう、必要情報を提供する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生自身による調査や情報収集にくわえ、有料のデータベースなどについては適宜こちらで情報を補いながら学生どうしの意見交換を促している。2019（令和元）年度は指導学生が6名と多く、個別指導の日程に余裕をつくるため例年のフィールドワークは実施しなかった。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎演習（2単位 毎年開講） 2年生	
② 内容・ねらい 情報を集め、整理し、伝える立場と、それを受ける立場を経験する場を提供する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生自身によるレジュメの作成やメモの取り方、レポート構成方法についての相互の意見交換などに多くの時間を割いた。フィールドワークとして、2020年3月13日には播磨社会復帰促進センターの参観を行う。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 低所得者支援（2単位 毎年開講 2012年度より開講） 4年生	
② 内容・ねらい 公的扶助につながるの深い所得保障や最低生活保障の施策がどのような働きをしているか学習する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義の前半を担当したが、社会福祉分野への就職を考える学生にとって将来の利用者や従事者の雇用・生活環境への想像が促されるよう、保健や居住の問題に関連するビデオをみて意見交換したほか、2015年4月に本格施行された生活困窮者自立支援法にも言及した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 雇用政策（1単位 毎年開講） 3年生	
② 内容・ねらい 労働問題にかかわる実状と制度を雇用保険事業などに主眼をおきながら考察する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会福祉分野への就職を考える学生にとって、国家試験の準備に資し、将来の利用者や従事者の雇用・生活環境への想像が促されるよう、関連のビデオを用いて意見交換している。総時間が少ないことを活かして、1時限ずつ隔週で実施することを試行した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	

<p>外書講読 (1 単位 毎年開講) 4 年生</p> <p>② 内容・ねらい 英語による解説文を読めるようになる。文章の解釈を通じて米、英における雇用環境や社会保障制度を知る。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大学院進学も念頭に置いている学生を含め、ある程度の長さのひとまとまりの文章の流れが把握できるような記入用資料を準備した。学生の学習意欲に応じ、1 単位 8 回分が満了しても適宜補講を行うが、2020 年度は履修者がおらず不開講になった。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 保健医療福祉行政論 (2 単位 毎年開講) 2 年生</p> <p>② 内容・ねらい 保健医療も含む福祉の行財政の実施体制を理解する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護学科との共通科目であるうえ、2 名のオムニバス講義なので平易で 1 回ごとに完結するような内容としている。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 社会政策特論 (2 単位 毎年開講) 大学院修士課程 1 年生</p> <p>② 内容・ねらい 社会政策、たとえば最低生活保障のしくみを概観する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2012 年度からは大学院生の思考の角度の拡大を意図して英文の用語解説を使用し、活発な対話的關係を維持している。2018 年度は、2017 年度につづき、経済学研究科への交換留学生を指導した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 社会政策演習 (2 単位 毎年開講) 大学院修士課程 2 年生</p> <p>② 内容・ねらい 修士論文の執筆につながるかたちで研究の深まるような題材を議論しつつ学習する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 制度面での近年の変化をふまえた資料の提示に心がけている。2017 年度から 2018 年度にかけては履修者がいなかった。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 修士論文指導 (2 単位 毎年開講) 大学院修士課程 2 年生</p> <p>② 内容・ねらい 研究方法の妥当性をつねに検証しつつ論文を作成する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 文章構成と研究の両面につき大学院生の方向性を生かすようにしている。電子ファイルを直接やりとりすることで文章添削の能率向上をはかった。社会政策演習同様、2017 年度からしばらく履修者が途切れている。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 労働経済学 (2 単位 2013 年度から毎年担当) 2 年生<経済学部を兼任></p> <p>② 内容・ねらい 日本の労働市場と雇用環境をめぐる今日的問題についての基礎的理解を促す。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 3 回に 1 回程度は労働問題にかかわりのあるビデオや映画の冒頭部分をみせて講義の導入と</p>

<p>することにより、他の経済問題と関係づけた理解の増進をはかっている。また、概ね5月末提出の中間レポートをふまえて、後半に基本的な情報の誤解の解消などを心がけている。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 導入ゼミ (1単位 2014年度から担当) 1年生<学術教養センターを兼任></p>
<p>② 内容・ねらい どの学部の学生にも必要な学習上のリテラシーを形成する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 自ら選んだ書籍の紹介を課することによって、傾聴やプレゼンテーションの動機づけをおこなった。また、学生の欠席傾向について所属学部の担当教員と連絡を取るなど、学生生活の始めの段階としての支援を意識している。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 医療経済学入門 (2単位 毎年開講) 福井大学医学部医学科1年生および看護学科2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 国内外の医療制度について経済的背景もふまえて大まかにとらえておく。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 新聞記事等から近年のトピックをとりあげるなどして具体的関心を喚起している。</p>
<p>(3)その他の教育活動 ・テーブルゲームサークル (永平寺キャンパス) 顧問 (2016年7月～)。 ・軟式テニスサークル (永平寺キャンパス) 顧問 (2016年10月～)。</p>

4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>① 論文 単著「最低賃金制：その存立根拠と日本の課題」、『貧困研究』Vol. 21、26-37頁、2018年12月。</p>
<p>② 著書</p>
<p>③ 学会報告等 ・単独「賃金分布の変化と最低賃金の水準設定」社会労働研究会 (大阪経済大学)、2017年4月15日。 ・単独「最近の国内の最低賃金：いくつかの『差』をめぐって」社会政策学会関西部会 (キャンパスプラザ京都)、2019年12月7日。</p>
<p>④ その他の公表実績 ・単著 (英文) : 'Japan Association for Social Policy Studies' 『日本経済学会連合英文年報 37号』、56-65頁、2017年12月。 ・単著 (コメント) 「『長時間労働』研究会報告を読んで」『自治研ふくい』(福井県地方自治研究センター)、印刷中。 ・単著 (書評) 「高野剛著 (2018) 『家内労働と在宅ワークの戦後日本経済—授産内職から在宅就業支援へ—』」『アジア・日本研究学術年報』(立命館大学アジア・日本研究所)、印刷中。</p>
<p>(2)学会活動等</p>
<p>学会でのコメンテーター、司会活動 ・コーディネーター：協同集会 in 福井 2017「福井発・協同で進める、働くことと地域づくり」2017年9月17日、永平寺キャンパス講堂。</p>
<p>学会での役職など ・社会政策学会 秋季大会企画委員長 2018年5月～現在。 ・社会政策学会 幹事 2018年5月～現在。 ・日本建築学会 建設技能者問題小委員会委員 2001年4月～現在。</p>

<p>学会・分科会の開催運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会政策学会 第137回大会（北海学園大学）書評分科会（労働）座長。（2018年9月15日） ・社会政策学会 第139回大会（法政大学）書評分科会（労働）座長。（2019年10月20日）
(3)研究会活動等
<p>①その他の研究活動参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会「職場の人権」第204回研究会（2017年5月20日）（エルおおさかく大阪市中央区）：単独報告「最低賃金の位置づけの変化—若者と高齢者のあるべき賃金率考」。
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
<p>平成29年度福井県立大学全学部競争資金D枠15万6千円「公契約条例による地域の労働市場への規制に関する研究」研究代表者。</p> <p>平成29年度福井県立大学看護福祉学部KF枠10万円「児童福祉分野の労働条件に関する近年の諸調査結果についての研究」</p> <p>平成30年度福井県立大学看護福祉学部KF枠13万円「公共サービスの民営化・民間委託のもとにおける雇用環境に関する研究」</p> <p>令和元年度福井県立大学看護福祉学部KF枠12万円「医療と福祉の有資格者の分布と課題に関する研究」</p> <p>平成31年度～平成34年度(令和4年度)科学研究費助成事業(日本学術振興会)基盤研究(C)(一般)：課題番号19K2045、310万円「少人数で就業する職種の労働環境と職能団体の機能に関する研究」研究代表者。</p>
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
<p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 鯖江市介護保険利用者擁護委員会 委員長 2006年度～ 鯖江市介護保険運営協議会 委員 2006年度～ 福井県社会福祉協議会 第三者評価調査者 2007年度～ 福井県介護人材確保対策協議会 委員 2007年度～ 大阪府豊中市総合評価一般競争入札審査委員会 委員 2007年度～ 全国健康保険協会福井支部 評議員 2008年度～2018年度 大阪府枚方市総合評価一般競争入札評価委員会 委員長 2009年～ 福井地方労働審議会 委員 2017年度～ 福井地方労働審議会労働災害防止部会 委員 2017年度～
②国・地方公共団体等の調査受託等
<p>③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井県地方自治研究センター理事 2007年度～ 労働と人権サポートセンター・大阪 理事 2010年6月～ 大阪地方自治研究センター運営委員長 2013年12月～
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> 尼崎市公契約条例の制定をめざす会代表世話人 2012年10月～
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
<p>① 公開講座・オープンカレッジの開講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県立大学公開講座「良質な地域雇用創出策としての公契約条例」（2017年6月18日）（社

会福祉学科の企画「一歩先の社会福祉学へ」の一部、於 N201) ・福井県立大学看護福祉学部シンポジウム「社会福祉研究セミナー 貧困と就労支援」(2019年3月16日)(於多目的ホール) コメンテーター
② 社会人・高校生向けの講座 ・福井県立丸岡高等学校「進路指導探求講座：社会福祉学科で学ぶ内容」(2018年10月30日)
③ その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等) ・講師(地域連携本部経由の依頼)自治労福井県本部「2017 現業・公企統一闘争総決起集会」基調提起「公契約条例の意義—その他『公契約』の課題—」 2017年11月3日(於 自治労福井県本部<福井市大和田>)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
なし
(2)委員会・チーム活動 学生支援委員会委員、2017年4月～2019年3月。 教育研究委員会委員、2019年4月～。 社会福祉学科カリキュラム検討ワーキンググループ、2017年4月～。 社会福祉学専攻入試委員、2016年4月～2018年3月。
(3)学内行事への参加 新入生オリエンテーション合宿引率(2017年4月8日～9日)。 入試説明会(福井南高校)(2017年9月7日)。
(4)その他、自発的活動など 福井地区事業場従業員過半数代表者(職場委員会代表)2007年4月～。 日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催「社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会」の受講： <社会福祉士基礎分野講習>於都漁連会館、2019年7月24日および、 <社会福祉士実習分野講習>於桜美林大学新宿キャンパス、2019年8月26日～29日。